

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-42	小学校	道徳科	道徳	1
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
208 光文	道徳 108	しょうがく どうとく ゆたかな こころ 1ねん		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条の教育の目標を達成するために以下の項目を以って基本方針としました。

◎「深く考え心が動く授業で子どもたちのゆたかな心を育てること」を目指し編修しました。

1

見通しをもった自主的・主体的な学習のために

【第1号】「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ため、冒頭にオリエンテーションを配置し、1年間の見通しをもった学習過程を示しています。

● 1年間の学習の見通しをもつ

冒頭にオリエンテーション「さあ、どうとくのがくしゅうがはじまります」(p.2～9)を配置。道徳科で学ぶ内容を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え理解し、自らの目的意識をもち、主体的に学習へ取り組めるよう配慮しています。

2

学習効果を高めるための工夫

【第1号】「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ため、掲載の教材では以下のような授業の流れを提案しています。

● 導入の工夫

各教材の冒頭に導入を設置し、主題に関わる問題意識をもたせ、教材の内容に興味・関心を抱かせます。それによって学習意欲を高め、目的意識をより明確にした上で、学習に取り組めるようにしました。

● 展開の工夫

児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など、様々な「投げかけ」を行うことで、多様な感じ方や考え方を実感できるようにしました。多面的・多角的に考える発問など、児童の思考を促すよう考慮しました。

■児童の思考をサポートするキャラクター



● 終末の工夫

「まとめる」として、その時間に学習した内容を振り返るポイントを提示。「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」を確認します。同時に今後の課題についても考えることができます。

導入でもった問題を意識して学習に臨み、終末で学習内容を振り返ることによって、授業開始時と終了時における考え・心の変容が実感できるようにしました。

● 発展の工夫

「ひろげる」として、「道徳の時間」で学んだことを他教科等や学校での活動、家庭生活、地域社会へとつながりをもたせ広げていくためのポイントを提示しています。

● 学習の振り返りの工夫

児童が自らの学習状況を確認する手立てとして、巻末に自己評価シート「まなびのあしあと」を用意しました。

3

多様な教材の開発

● 多様な教材の開発【第1・3・4・5号】

幅広い知識と教養を身につけるため、学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすく、読み継がれてき

た名作，人間としての生き方に迫ることができる題材を用意しています。

「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」といった題材は，発達段階を考慮しながら全学年に設置しました。特に「スポーツ」に関連して，オリンピックやパラリンピックを題材として，自国の選手の活躍や国際的な大会としての見地もふまえた国際理解・親善にもつながる教材を掲載しました。

また，偉人など様々な人々の教材からは，その考えや生き方から学ぶことを通して，「勤労を重んずる態度」「主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度」を養えるよう配慮しています。

● 地域教材の開発【第5号】

「伝統と文化を尊重」する態度を養うため，地域の伝統や文化，行事，先人など，児童に身近なことがらを題材としました。各地域の事例にあわせた学習へつなげられるよう，モデル教材として内容の汎用性を高めました。

4

指導内容の重点化

● 生命の尊さを軸に「生きる力」を育む【第4号】

「生命を尊ぶ」ため，生命の尊さについて，人間尊重の精神を重んじ，生命に対する畏敬の念をもち，人間としてよく生きる喜びへとつながるよう，小学校6年間の見通しをもって取り組めるよう配置しました。

5

体験的な学習についての配慮

【第3号】「主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度」を養うため，以下のような体験的な活動への広がり进行了考慮しました。

● 「まとめる」「ひろげる」の活用

「公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う」ため，学習のまとめとして，挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い，そのよさや難しさなどを体験する活動を提示し，他教科の学習や家庭・地域での活動で実際に行うことを提示しています。

● 人間関係づくり

「男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずる」ために，コラム「みんなでやってみよう！」で，コミュニケーション能力を高め，よりよい人間関係の構築を図り，様々なグループワークを提示しています。主体的・対話的で深い学びの実践としても活用できるようにしました。

● 勤労と社会奉仕への対応

様々な人物に焦点を当て題材を吟味し，キャリア教育にもつながる，生き方を学ぶ教材を用意しました。

また，多様な社会奉仕活動や学校内での奉仕活動なども取り上げ，「主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う」ことに配慮しました。

6

問題解決的な学習の工夫

● 「問い」をもつ【第1号】

「真理を求める態度」を養うため，オリエンテーションでは，「なぜだろう」「どうしてだろう」と，児童が常に「問い」をもって授業に臨むことの重要性を示しました。各教材においても，児童の経験や生活の中から「問い」がもてるように，様々な設問（導入）の工夫をしています。

7

家庭や地域との連携

● 「ひろげる」の活用【第3号】

「公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う」ため，家庭や地域の人たちと関わりのある活動を示し，学習したことが児童の日常の生活へつながるように配慮しました。

8

自己評価の活用

● 「まなびのあしあと」の設置【第1・2号】

「真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心」を培い，「個人の価値を尊重して，その能力を伸ばす」ために，学習後の振り返りを行い，巻末自己評価シート「まなびのあしあと」を記入します。授業後の心の動きや学びを継続し道徳性をより深め育み，書き溜めることにより児童自らが成長を実感し，新たな課題や目標を見つけていく学習に取り組めます。

2. 対照表

図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について、主な教材を取り上げ、該当ページを示しました。

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全般		○イラストや写真などにおいては、男女の平等などに留意しました。（第3号）	すべてのイラスト・写真
オリエンテーション さあ、どうとくのがくしゅうがはじまります		○道徳の授業でどのような学習をしていくかを説明し、児童が自らの生活を振り返ることで、課題をもって学習に取り組み、学んだことを生活に生かせるようにしました。（第1号）	p.2～9
A 主として自分自身に関すること	8 きんのおの	○うそやごまかしをしないことで、明るく楽しい生活が送れることが実感できるように配慮しました。（第1号）	8 p.26～29
	10 かぼちゃのつる		22 p.82～85
	12 あおしんごう		28・29
	15 ぼくはいかない		p.105～111
	まいにちをきもちよく（17・18）	○日常のさまざまな場面でどうしたらよいか考えさせ、基本的な生活習慣を身につけることによって、人としてよりよく生きようとする心と態度を培っていけるようにしました。（第1号・第3号）	12 p.42～43
	17 ちゃんとのたつじん①		15 p.52～55
	18 ちゃんとのたつじん②		17・18
	22 ぼくはずかしいや		p.61～69
	25 一にち十ぶん		35 p.132～133
	してはいけないこと（28・29）	○自分の特徴を理解し、個性を伸ばして長所とすることによりよく生きる喜びにつながるようにしました。（第2号）	32 p.120～123
	28 ひつじかいとおおかみ		
	29 なまはげ	○身近な事例をもとに、積極的に行うべきよいことと、人としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養えるようにしました。（第3号）	10 p.34～37
	32 ぼくにもあるかな		15 p.52～55
	35 うわばきぶくる		22 p.82～85
			28・29
			p.105～111
B 主として人との関わりに関すること	1 みんなでたのしく	○擬人化した動物を登場人物とした物語を取り上げ、低学年の児童に思いやりや友情の大切さを分かりやすく伝えられるようにしました。（第1号）	2 p.12～13
	2 あいさつでげんきに		23 p.86～89
	4 がっこうたんけん		31 p.116～119
	9 がっこうまでのみち		
	14 おとしよりといっしょに	○友達や先生、上級生、地域の人など、学校生活の中で接する多くの人を取り上げ、感謝の気持ちと思いやりの心をもって学校生活を送ることができることをねらいとしました。（第2号・第3号）	1 p.10～11
	23 はしのうえのおおかみ		2 p.12～13
	26 だいじなわすれもの		4 p.16～17
	31 二わのことり		9 p.30～31
	36 スポーツとおじぎ		14 p.50～51
		○日本のオリンピック選手団の事例を紹介し、礼儀を基盤とした日本の特色に触れることで、礼儀正しい日本人の特色を感じられるようにしました。（第5号）	36 p.134～135

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
C 主として集団や社会との関わりに関する事	3 みんなでまろう 5 わたしにできること 11 まちたんけん 13 ぷうたのやくめ 20 もみじがり ／につぼんのぎょうじーねんかん 21 すてきなことば「あふたあゆう」 ／わたしたちのすてきながっこう 24 ルールがないとどうなるの？ —スマホやゲームきをつかうとき— 27 エマさんのこたえあわせ ／がいこくとにつぼんのちがい 30 ぎんのしずく 34 もうすぐ二ねんせい 37 きいろいベンチ 38 ぼくにもたせて	○学校生活を中心に、児童の活動範囲の中で示されるきまりや約束事を取り上げ、公共の精神を養い、より良い社会生活を送るための基盤を形成できるようにしました。（第1号、第3号） ○お手伝いを通して、みんなのために働くことのよさを感じ、将来的な社会的自立や職業観の芽生えとなるようにしました。（第2号） ○自分の住む町のよさや、伝統的に行われている行事を取り上げた教材をもとに、伝統文化や郷土を敬愛する気持ちを高められるようにしました。（第5号） ○海外からの転入生とのやりとりから日本と他国の違いに触れ、他国に対する興味を喚起するとともに、他国文化を尊重する精神を育成するようにしました。（第5号）	3 p.14～15 24 p.90～93 37 p.136～139 5 p.18～20 11 p.38～41 20 p.72～77 27 p.100～104
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	❖ いのちのかがやき（6・7） 6 みんなみんないきている 7 おたんじょうびれっしや 16 わきだしたみず ／たいせつないのちをまもるために 19 うちのねこ 33 ひしゃくぼし 39 さるのおかあさん・サヤカ ／みんないっしょにきている 40 ウォルト・ディズニー —どうぶつといっしょに—	❖ 6・7 p.21～25 16 p.56～60 39 p.142～147 19 p.70～71 40 p.148～151
コラム	みんなでやってみよう！ おおきくそでよう「ありがとうのき」	○人に感謝すること、ならびにその感謝に応えることを活動を通して身につけ、生活全般をより豊かなものにするをねらいとしています。（第1号・第3号）	p.32～33
	じょうほうモラル スマートフォン（スマホ）ってどうやってつかうの？	○児童に知っておいてほしいマナーを学ぶだけでなく、そのマナーが必要な理由も考えることができるように配慮しています。（第3号）	p.44～45
	みんななかよしたのしいがっこう みんなのよいところは？	○友達のような特徴に気づくとともに、その価値を尊重し、より良い人間関係を築けるようにしました。（第2号・第3号）	p.130
	ことばのたからもの	○児童の学びの支えとして、言葉のもつ力を知り、それが支えとして今後に生きるものであることを実感できるようにしました。（第1号）	p.131
まなびのあしあと		○授業の記録をつけることで、学習内容の定着を図り、自己の成長を振り返ることができるように配慮しました。（第1号）	巻末折り込み ①～④

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条及び学校教育法第21条に示された義務教育の目標を達成するために、以下のような編集方針を以って臨みました。

● 授業の見通しをもつ 【教育基本法第5条／学校教育法第21条1・2号】

「自立的に生きる基礎を培う」ため、各教材の冒頭に「導入」、最後に「まとめる（終末）」「ひろげる（発展）」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にし、児童一人一人が意識を高めた中で「道徳の時間」の学習に取り組めます。

「導入」では、教材に対する興味・関心を引き出したり、問題意識をもたせたりするなど、「自主自立の精神」のもと、学習に対する意欲と動機づけが高まるように配慮しました。

「まとめる」「ひろげる」では、「学校内外における社会的活動」の促進を期待し、その時間の授業を振り返り、その後の「道徳の時間」以外への活動へつなぎ、さらに広げられるよう考慮しました。



● 体験活動から実生活での行動化へ 【学校教育法第21条1・2号】

オリエンテーション内の、「どうとくのじかんはこんなじかんです」の中で、体験することの重要性に児童が着目できるように、授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識づけを促す構成としています。

明るく楽しい学級づくりを目指す「みんなでやってみよう！」で「人間関係づくり」のコラムを全学年に取り入れています。

● 連携しやすい教材 【学校教育法第21条1・2号】

学校内外における社会体験活動を促進し、家庭や地域との交流を描く教材を生かし、家庭や地域との連携がとりやすい教材を作成しました。また、自然体験活動の促進も同様に実際の自然と触れ合う行動や行事などを絡めた教材づくりを行いました。他教科とも適宜関連連携が図れるよう構成の配慮をしています。

● 社会の形成者として 【教育基本法第5条2号】

「国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う」ため、実生活での道徳的実践にも生かせるよう配慮しています。冒頭のオリエンテーションでは「いろいろなばめんで……」（p.6）として、学校・家庭・地域での道徳体験と行動を示唆し、各教材の終末・発展では生活の中で道徳性を発揮するための提案も行っています。また、社会に参画する構成員の一員としての自覚を育む配慮もしています。

併せて「主権者教育」の視点から「社会参画に関する教育」なども教材の題材として扱っています。

● 言葉のもつ力を生かす 【学校教育法第21条第5号】

本編教材では言語活動との関連もふまえ、教材を読むことで読書活動を行い、また学習内容を広げるために、題材と関連する本を読むよう促す終末・発展の工夫もあります。また、コラム「ことばのたからもの」では、語彙の獲得にもつながるよう、名言や格言を紹介し、教材とも関連させ、言葉のもつ力を実感できるようにし道徳的にも意味あるものとして掲載しました。

● よりよく生きるために 【学校教育法第21条10号】

勤労を重んずる態度として「勤労、公共の精神」の内容を基に配慮しています。「個性の伸長」によって個性を生かすことを学び、偉人や活躍する著名人の生き方からキャリア教育的な見地からも、特性を育み学べる教材を重視しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-42	小学校	道徳科	道徳	1
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
208 光文	道徳 108	しょうがく どうとく ゆたかな こころ 1ねん		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

◎「深く考え、心が動く授業で、子どもたちのゆたかな心を育てる」ことを目指して編修しました。

1 見通しをもった自主的・主体的な学習のために

● 1年間の学習の見通しをもつ

教科書の冒頭にオリエンテーションとして「さあ、どうとくのがくしゅうがはじまります」(p.2～9)を配置することで、道徳の学習で「どういったことを、どのように学ぶのか」を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え理解し、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるように配慮しました。

道徳で学習したことが、他教科・領域の学習や学校行事、日常生活などへとつながり、また日常生活の中から問いを見つけ、道徳の学習へ返っていくというスパイラルでの学習を図としてあらわしました。児童自らが課題を見つけたり、学んだことを生活に生かしたりすることの大切さをわかりやすく説明し、児童自身の将来像を描けるように構成しています。

また、命・いじめ・情報についてはもくじにて新たにマークで明示しました。

● 毎時間の授業の見通しをもつ

各教材には、冒頭に「導入」、最後に「まとめる(終末)」「ひろげる(発展)」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にしました。「導入」では、教材に対する興味・関心を引き出したり、問題意識をもたせたりするなど、学習に対する意欲をもたせ、動機づけができるようにしました。「まとめる」「ひろげる」では、その時間の授業を振り返り、授業後の活動へとつながるようにしています。

■まとめる
マーク■ひろげる
マーク

2 学習効果を高めるための工夫

● 導入の工夫

各教材には、冒頭に導入を設置し、主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味・関心をもたせたりすることで、学習への意欲を高め、目的意識をもって学習に取り組めるようにしました。

● 展開の工夫

児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広げるための見方など、キャラクターを通して様々な「考える」投げかけを提示しています。投げかけをもとに、多様な感じ方や考え方を実感できるようにし、児童自身の考えを深めたり広げたりできるように配慮しました。

考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考える発問など、児童の思考を促す投げかけになるよう考慮しています。

● 終末の工夫

「まとめる」として、その時間に学習した内容を振り返るポイントを提示し、「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」や今後の課題について考えられるようにしました。導入で問題意識をもって学習に臨み、「まとめる」で学習内容を振り返ることによって、授業開始時と終了時における考えの変容が実感できるようにしています。

● 発展の工夫

「ひろげる」として、道徳の学習で学んだことが、他教科・領域や家庭生活、地域社会へとつながるような課題やポイントを提示しました。他教科等との関連をもたせた指導を有効に行うことができるよう、学習時期も配慮した配列としています。

● 学習の振り返りの工夫

児童一人一人が自らの学習状況を確認する手立ての一つとして、巻末に自己評価シート「まなびのあしあと」を用意しました。

■児童の思考をサポートするキャラクター



3

多様な教材の開発

● 選択できる教材の掲載

学校や地域の実態などに即して弾力的に取り扱えるように、第1学年は6本、第2～第6学年は5本の選択教材を用意しました。

● 多様な教材の開発

学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい題材や、長く読み継がれてきた名作など人間としての生き方に迫ることができる題材を選定しました。特に「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」等の題材については、児童の発達段階を考慮し全学年に設置しています。また、オリンピックやパラリンピックを題材とした教材も設定しました。

● 現代的な課題への対応

情報化への対応に関しては、「規則の尊重」「善悪の判断、自律、自由と責任」「相互理解、寛容」「節度、節制」といった各内容項目の教材において『情報モラル』に関わる内容を題材として扱い、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度について考えられるようにしました。また、『情報モラル』は特に配慮が必要な項目と捉え、全学年とも本編の教材のほかにコラムとしても取り上げています。また、『主権者教育』の視点から「社会参画に関する教育」など、『人との共生』の視点から「国際理解教育」「障害の有無などに関わらず、互いのよさを認め合って協同していく態度」など、併せて「防災教育」等の諸課題についても、教材の題材として取り入れ、その学習を行うことで児童が自分との関係で捉え考えられるよう配慮しました。

● いじめの防止

いじめの防止や安全の確保といった課題については、児童にとって喫緊の問題であると捉え、各内容項目の教材において、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題として捉えられるような教材を選定しました。

また、本編教材のほかに、全学年にコラム「みんななかよし たのしいがっこう」を発達段階に合わせて設置し、特に学校生活において、児童自らがいじめの防止等に主体的に関わる態度を育めるように配慮しました。

● 地域教材の開発

地域に根づく伝統や文化、行事、先人など、児童にとって身近なものを題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことにもつながるように配慮しました。題材は各地域のものであっても、どの地域においても活用できるよう、汎用性をもたせたつくりとなっています。

4

指導内容の重点化

● 重点主題の設定

特に「重点的な指導を必要とすることがら」(『小学校学習指導要領』第1章総則 第1の2)について、長期的な見通しのもとにしっかりと育むという趣旨のもと、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を児童の発達段階に考慮して設定しています。

- 1・2学年「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「生命の尊さ」
- 3学年「規則の尊重」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「生命の尊さ」
- 4学年「規則の尊重」「友情、信頼」「生命の尊さ」
- 5学年「相互理解、寛容」「勤労、公共の精神」「生命の尊さ」
- 6学年「規則の尊重」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「生命の尊さ」

● 「生命の尊さ」を軸に「生きる力」を育む

重点主題のなかでも、特に「生命の尊さ」については、人間尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよく生きる喜びにつながるよう、6年間の見通しをもって取り組めるようにしました。

5

言語活動の充実

● オリエンテーションの活用

オリエンテーション(p.2～9)において、考える活動についての方法を掲載し、その重要性や目的がわかるようにしました。また、「どうとくのノート」の例を提示し、書いてまとめることによって理解を深めたり整理したりできることを示しました。

● 「まとめる」「ひろげる」の活用

「まとめる」「ひろげる」では、話し合ったり書いたりする活動を示唆し、学習の理解を深められるようにしました。

● 言葉のもつ力

コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、教材に関連させることで言葉の意味を深く理解し、言葉のもつ力を実感できるようにしました。

● 自己評価シートの活用

「まなびのあしあと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力を育み学習を継続的に深められるようにしました。

6

体験的な学習についての配慮

● オリエンテーションの活用

オリエンテーションにおいて、体験することの重要性に児童が気づき授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識づけができるような構成としています。

● 「まとめる」「ひろげる」の活用

学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を示唆したり、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際にやってみることを提示したりしています。

● 人間関係づくり

コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築にむけて、発達段階に応じた様々なグループワークを提示しています。主体的・対話的で深い学びの実践としての活用にもつなげられます。

7

問題解決的な学習の工夫

● 「問い」をもつ

オリエンテーションにおいて、「なぜだろう」「どうしてだろう」と、児童が常に「問い」をもって授業に臨むことの重要性を示しました。各教材においても、児童の経験や生活の中から「問い」がもてるように、様々な設問（導入）の工夫をしています。

● 多面的・多角的に考える

教材の下段には、「考える」投げかけを配置し、様々な視点から投げかけを行い、児童が多面的・多角的に考えられるようにサポートし、様々な考えや意見をもとに、問題の解決にむけて取り組むことができるように配慮しています。

8

家庭や地域との連携

● 「ひろげる」の活用

家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示し、学習したことが児童の日常へつながるように配慮しました。

● 連携がしやすい題材

教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携がとりやすい題材を多種取り入れています。

9

評価について

● 「まなびのあしあと」の設置

児童が学習後の振り返りができるように、巻末に自己評価シート「まなびのあしあと」を用意しました。授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組めるように配慮しています。また、学期末や年度末といった長いスパンでの振り返りもできるように、「まとめ」欄も設けています。

10

誰にでも使いやすい教科書

● 読みやすい文章

漢字は漢数字のみの使用を基本とし、分ち書きや文節で改行を行うなど、読みやすさを配慮しました。分かりにくい文言には、適宜脚注で説明を設けています。

● 大きな写真やイラスト

写真やイラストが引き立つようレイアウトし、児童の興味・関心や思考が深まるようにしました。

● ユニバーサルデザイン

図版やグラフ等の配色は、だれでも見やすいよう専門家の目を通し、カラーユニバーサルデザインに配慮して編修しています。また、児童の負担感の軽減のために、紙の厚みを抑えて軽量化を図っています。教材には、登場人物の紹介を冒頭に入れ、より読みやすい教材づくりを図りました。

11

造本上の工夫

● 環境への配慮

表紙・本文には再生紙を使用しています。また、印刷には植物油インキを使用しています。

製本には針金を使用せず、堅牢性を保ちながら環境にも配慮しています。

● 堅牢性

はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻繁に開閉しても壊れないよう工夫しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	備考	配当 時数
	主たる内容項目	関連性のある内容項目			
オリエンテーション さあ、どうとくのがくしゅうがはじまります	すべて		p. 2～9		*
1 みんなでたのしく	B 友情, 信頼	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	p. 10～11	共生	1
2 あいさつでげんきに	B 礼儀	A 正直, 誠実	p. 12～13		1
3 みんなでまもう	C 規則の尊重	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	p. 14～15		1
4 がっこうたんけん	B 感謝	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	p. 16～17		1
5 わたしにできること	C 勤労, 公共の精神	C 家族愛, 家庭生活の充実	p. 18～20	主権者	1
重点主題 扉 いのちのかがやき	D 生命の尊さ		p. 21		
6 みんなみんないきている	D 生命の尊さ	B 親切, 思いやり	p. 22～23		1
7 おたんじょうびれっしや	D 生命の尊さ	A 正直, 誠実	p. 24～25		1
8 きんのおの	A 正直, 誠実	A 節度, 節制	p. 26～29		1
9 がっこうまでのみち	B 感謝	B 礼儀	p. 30～31		1
コラム みんなでやってみよう！ おおきくそだてよう「ありがとうのき」	B 感謝	B 友情, 信頼	p. 32～33		*
10 かぼちゃのつる	A 節度, 節制	A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	p. 34～37		1
11 まちたんけん	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	p. 38～41		1
12 あおしんごう	A 節度, 節制	C 規則の尊重	p. 42～43		1
コラム じょうほうモラル スマートフォン（スマホ）ってどうやってつかうの？	C 規則の尊重	A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	p. 44～45	情報	*
13 ぶうたのやくめ	C 公正, 公平, 社会正義	C 勤労, 公共の精神	p. 46～49	いじめ	1
14 おとしよりといっしょに	B 親切, 思いやり	B 感謝	p. 50～51	共生	1
15 ぼくはいかない	A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	C 規則の尊重	p. 52～55	いじめ	1
16 わきだしたみず	D 生命の尊さ	B 友情, 信頼	p. 56～59		1
コラム たいせつないのちをまもるために	D 生命の尊さ		p. 60	防災	*
重点主題 扉 まいにちをきもちよく	A 節度, 節制		p. 61		
17 ちゃんとのたつじん①	A 節度, 節制	C よりよい学校生活, 集団生活の充実	p. 62～65		1
18 ちゃんとのたつじん②	A 節度, 節制	A 希望と勇気, 努力と強い意志	p. 66～69		1
19 うちのねこ	D 自然愛護	D 生命の尊さ	p. 70～71		1
20 もみじがり	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	D 感動, 畏敬の念	p. 72～75		1
コラム につぼんのぎょうじーねんかん	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度		p. 76～77		*

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	備考	配当 時数
	主たる内容項目	関連性のある内容項目			
21 すてきなことば「あふたあゆう」	C よりよい学校生活，集団生活の充実	B 親切，思いやり	p. 78～80	いじめ 共生	1
コラム わたしたちのすてきながっこう	C よりよい学校生活，集団生活の充実		p. 81		*
22 ぼくはずかしいや	A 正直，誠実	A 善悪の判断，自律，自由と責任	p. 82～85		1
23 はしのうえのおおかみ	B 親切，思いやり	B 友情，信頼	p. 86～89	いじめ	1
24 ルールがないとどうなるの？ —スマホやゲームきをつかうとき—	C 規則の尊重	A 善悪の判断，自律，自由と責任	p. 90～93	情報	1
25 一にち十ぶん	A 希望と勇氣，努力と強い意志	A 個性の伸長	p. 94～97		1
26 だいじなわすれもの	B 礼儀	B 感謝	p. 98～99		1
27 エマさんのこたえあわせ	C 国際理解，国際親善	B 友情，信頼	p. 100～103	共生	1
コラム がいこくにつぼんのちがいは	C 国際理解，国際親善		p. 104		*
重点主題 扉 してはいけないこと	A 善悪の判断，自律，自由と責任		p. 105		
28 ひつじかいとおおかみ	A 善悪の判断，自律，自由と責任	A 正直，誠実	p. 106～109		1
29 なまはげ	A 善悪の判断，自律，自由と責任	A 節度，節制	p. 110～111		1
30 ぎんのしずく	C 家族愛，家庭生活の充実	B 感謝	p. 112～115		1
31 二わのことり	B 友情，信頼	B 親切，思いやり	p. 116～119	いじめ	1
32 ぼくにもあるかな	A 個性の伸長	C 家族愛，家庭生活の充実	p. 120～123	共生	1
33 ひしゃくぼし	D 感動，畏敬の念	B 親切，思いやり	p. 124～127		1
34 もうすぐ二ねんせい	C よりよい学校生活，集団生活の充実	B 感謝	p. 128～129		1
みんななかよしのしいがっこう みんなのよいところは？	B 友情，信頼	A 個性の伸長	p. 130	いじめ	*
ことばのたからもの	B 感謝 A 希望と勇氣，努力と強い意志		p. 131		*
35 うわばきぶくろ	A 節度，節制	B 感謝	p. 132～133		*
36 スポーツとおじぎ	B 礼儀	C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	p. 134～135	共生	*
37 きいろいベンチ	C 規則の尊重	A 善悪の判断，自律，自由と責任	p. 136～139	共生	*
38 ぼくにもたせて	C 家族愛，家庭生活の充実	B 親切，思いやり	p. 140～141	共生	*
39 さるのおかあさん・サヤカ	D 生命の尊さ	D 自然愛護	p. 142～146	いじめ 共生	*
コラム みんないっしょにいている	D 生命の尊さ		p. 147	共生	*
40 ウォルト・ディズニー —どうぶつといっしょに—	D 自然愛護	A 個性の伸長	p. 148～151		*
			合計		34

○重点主題は，特に重点的な指導を必要とすることがらについて，複数の教材を続けて学習することによって，道徳的価値の理解を深め，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てるという趣旨のもと，設定している。

○備考欄には、『学習指導要領』第3章 特別の教科道徳 第3の2，3（1）に記載されている題材を取り扱った主な教材を記した。

いじめ→いじめの防止／情報→情報モラル・情報社会／主権者→主権者教育／共生→人（他者）との共生／防災→防災教育

○配当時数が＊印の教材は，適宜扱う。